

(生活・総合)

深い学びを実現するカリキュラムマネジメントの展開
—生活科・総合的な学習の時間「はぐくみ」を中核にして—

大阪市立大江小学校

1. 研究主題設定の理由

本校は1400年の歴史ある四天王寺に隣接し、校区には歴史と伝統のある名所や旧跡が多く残っている。また、日本で一番古い夏祭りである愛染祭や、子供だんじりを巡行している大江祭など今でも歴史を肌で感じられる行事も多くあり、子ども達は毎年楽しみにしている。小学校は創立150年を迎え、これまでの研究において「豊かな心で、自ら考え判断し、進んで行動する子ども」の育成を一貫して行ってきた。そこでは、生活経験の根幹となる地域と関連付いた生活・総合の時間「はぐくみ」を中心とした取り組みが行われてきたが、それぞれが学年単体としての取り組みに終わり、系統性が見えにくいものとなっていた。

そこで令和2年度から、その「はぐくみ」の時間に再び焦点をあて、「深い学びを実現するカリキュラムマネジメントの展開～生活科・総合的な学習の時間「はぐくみ」を中核にして～」という主題のもと、さらなる検証分析による授業実践開発、それらの授業実践を系統的に配置した生活科・総合的な学習カリキュラムの構築を進めてきた。

2. めざす子ども像

本研究での地域学習の本質は、地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々（伝統文化）を探究課題としてとりあげ、その解決を通して、生涯にわたって関わるであろうそれぞれの地域の伝統や文化を受け止め、今後の自分の生き方に活かしていこうとすることである。そのためには、さまざまな学び方や自己評価力を身につけながら、よりよい環境や人間関係を創り出すことが重要である。そこで、生活科・総合的な学習の時間の目標を達成できる子どもの姿として、次のような子ども像を設定した。

各教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を総合的に活用して、大江地域の環境や人々に主体的にはたらきかけ、友だちや周りの人と共に、よりよい地域環境や地域との人間関係を創り出そうとする中で、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、自己の生き方やこれから出会う地域との創造的な関わり方を考えることのできる子ども

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 「地域学習」を基盤とした生活科・総合的な学習の時間

本校の地域の特色を生かした研究を行うことで、児童に郷土の伝統と文化を尊重し、自ら育った地域を愛する心情を育むことができると考える。地域教材や学習環境を積極的に活用し、主体的に学習に取り組む態度を育て、探究的な学習を実現することによって、思考力の育成を図りたい。また、学校に隣接している大江幼稚園と交流を進めていくことで、生活経験を学習に生かすことができ、幼小9年間の学びを実現するカリキュラム開発ができると考える。

視点② ルーブリックの活用

学びを確かなものにするためには「どのような視点」をもって活動し、最終的に「何が分かればよいのか」「何ができるようになればよいのか」という到達点を明確にする必要がある。そこで、導入時に活動のめあてをつかませた後で、めあてを達成するために具体的な到達目標（ルーブリック）を子どもと指導者が共有する場を設定する。活動の方向性やゴールが明確になることで、子どもがより意欲的・主体的に課題解決に向かうことができる。単元の計画段階・中間段階・最終段階を節目に振り返る時間をもつことで、自分の学びの成果を振り返ったり、新たな課題を明確にしたりして、次の学習へと意欲がつながっていくことを期待する。

視点③ PDCA サイクルによるマネジメントシステムの構築

学習指導要領では、各学校が設定する教育目標を実現するために、どのような教育課程を編成し、どのようにそれを実施・評価し改善していくのかというカリキュラムマネジメントの確立が求められている。特に、各学校が編成する教育課程を核に、どのように教育活動や組織運営など学校の全体的な在り方を改善していくのかが重要とされている。そこで、系統的な「地域学習」「キャリア学習」を推し進めるためカリキュラムの再編を行う。カリキュラムづくり一連の流れにおいて、より良いものへと発展させていくことができるよう「Plan（計画）－Do（実施）－Check（評価）－Act（改善）」サイクルを活用していく。

4. 研究の成果と今後の課題

（1）研究の成果

実践検証や子どもの姿を通して、3視点において以下のことが明らかになった。

1. 地域の教材や学習環境を活用し、思考力育成を図るための単元の再開発

開発にあたっては、長期的な視点をもって、本校のカリキュラムに位置付くよう、持続可能な単元の在り方を模索した。その結果、地域学習を核とした生活科・総合的な学習の地域教材について、持続可能な開発が多くできた。

2. ルーブリックの活用

「環境への実践力」、「先を見通した思考力」、「人と関わり学ぶ態度」の3つの観点それぞれ4項目ずつ、12の視点に整理することができた。また、低・中・高と3段階の姿を設定しそれぞれの学年でアレンジし活用することができた。

3. PDCA サイクルによるマネジメントシステムの構築

カリキュラムマネジメントに対する考えを共有できるよう、研究授業では大学より講師を招いて実技研修会を実施した。そして6年間を通したグランドカリキュラムを作成することができた。上述したルーブリックとグランドカリキュラムは、指導者用携帯シートとして持ち運べるよう工夫した。

（2）今後の課題

○ルーブリックの精選

○相互交流における視点の明確化

○持続可能な地域連携のあり方

○縦のつながりを意識した異学年連携（校種連携）を取り入れた単元開発

○教科・領域を横断したカリキュラム（横のつながり）